



九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第30号

2010年11月発行・東久留米「九条の会」
代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel.042-473-9489
<http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/>

日本国憲法9条を守り、活かす 東久留米「九条の会」

東久留米「九条の会」5周年の集い

品川正治さんが講演

東久留米「九条の会」は9月25日、5周年の集いを、東久留米市生涯学習センター（旧中央公民館）で開きました。300名あまりの参加がありました。

第一部は、東久留米市民による平和朗読劇「ハテルマ シキナ」の上演。この朗読劇は、一人芝居の楯岡真弓さんの演出で、8月に「市民がつくる夏の平和行事in東久留米」で発表されたものを今回の集いに合わせて再構成されたものです。

太平洋戦争末期、軍部は八重山の住民に強制疎開命令を出し、住民は石垣島北部、西表島等、マラリア有病地帯に疎開させられ、その結果多くの住民がマラリアで亡くなりました。中でも酷かったのが波照間島。住



民全員が西表に疎開させられ、大半がマラリアに感染、学童も含めて島民の三分の一が亡くなりました。軍の暴虐が引き起こしたこの惨事「戦争マラリア」の話で、始めて知っておどろきました。軍のやり方、おそろしさが伝わりました。というよう

な感想が多く寄せられました。第2部は、品川正治さんの「戦争、人間、そして憲法9条」と題した講演でした。

品川さんは、現在、経済同友会終身幹事、国際開発センター会長、全国革新懇代表世話人をなされています。

1924年生まれの86歳ですが、とてもお元気で、しっかりとお話でした。旧制第三高等学校在学中に召集され、中国戦線に出兵されました。戦場で負傷し、体内に破片を残したままです。

60数年ご自身の戦争体験を話すことができなかった、生き残ったトラウマに苦しんでおられた品川さんは、これだけは伝えなければ死にきれない、体験したものの責任だという思いで語り、聴く者の心に染みしました。引き上げ船の中で始めて憲法に接した時の感動と思い出、戦争を起こすのも人間、その戦争を起こさせないのも人間、そし

て今、9条の旗はボロボロだけど、国民は憲法の旗竿は決して離そうと語らないと語り、最後に「話を聴いて頂きありがとう」と結びました。熱のこもったお話しに、参加者からは、感動した、9条の大切さを再確認したという感想を多くいただきました。

感想は多数寄せられました。が、紙面の関係で抜粋しての掲載となりますが、どうぞご覧ください。

なお当日多くの方からカンパを頂きありがとうございました。紙面をかりてお礼申し上げます。
(事務局)

5周年の集い 感想

●朗読劇について

▼二度目に聞きましたが、再度思い出しました。戦争は軍人だけがやるのではなく普通の市民(村民)がこれほどひどい目に合う事なのだ。改めて人権や民主主義の大切さを考えました。

▼ハテルマシキナは始めて具体的な内容を知ることができました。今までは「そうしたことがあった」ということしか知っていませんでしたので、無知であつたことが恥ずかしいと思います。戦争の犯罪行為を風化させないことが今本当に必要なと思います。その地道な取り組みが、9条、憲法を守る大きな力になると思います。これからも市民の朗読劇を続けられる活動を期待します。



市民による朗読劇「ハテルマシキナ」

▼戦争を二度と繰り返してはならないと、この朗読劇で感じました。朗読する人たちが、それ

ぞれの島民の魅力をよく表わしています。

▼戦争というものが様々な形で、人々の暮し、人生を破壊していく残酷さを、人との繋がりのたいせつさを改めて感じ、印象に残る舞台でした。脚本を書かれた方、関係者の方、出演者の皆様ありがとうございました。

▼南の島の美しい自然の中で、非戦闘員が有無を言わず犠牲になっていく痛ましい姿が生々しく迫ってきました。なぜこんなことが起きたか、陸軍中野学校の実態をあげていくところ、ゾツとしてきました。大変力がこもった熱演、ありがとうございます！

▼15年間の伝統に裏打ちされて、深みと力強さが心にしみましました。短期間の練習、日々の忙しい生活の時間をさいて頑張られて、皆様に心を込めて拍手を送らせて頂きます。

▼市民として誇りです。

▼沖縄の戦争はほんとうに痛ま

しい。周辺の波照間島などの小さな島々で行われた戦争の事実にも改めてびっくりしました。いつまでも朗読で教えていってください。目をつぶって聞くことができ、深いところから感じる事ができました。

▼反戦、平和が中心だから、子どもたちの参加をすすめてください。子どもたちに本当の戦争の悲劇を伝えていくことが大切です。

●品川さん講演について

▼出征し帰還した人(私の父もそうでした)が、あまり戦争の話をしない、できない理由がよくわかりました。生きること必死で話す機会もなかったのだと思っていたのですが、口にはきかない悲惨な現場を見てきたり、戦友を助けられなかった自分をせめる気持ちがあったり、また上官から口止めされたり、いろいろな理由から、品川さんさえ数年前まで話せなかったのですものね。

我が娘が、わが子を「何があっても守る」と言っています。政治や社会の動きに関心がありません。愛するものを守るためには絶対平和でなければなりません。子や孫に伝えたいです。一番苦しんでいる人から助けるという言葉、心に残りました。

▼経済界の方が憲法の大切さを語ったこと、さらに「話を聞いていただきありがとうございます」と言われ、恥ずかしい気がした。憲法改悪されないようがんばろうと思った。

▼9条に対する思いは本当に深いものがあると思った。どちらかという形だけになってしまふ私たちは、もつともつと心を込めなければならぬと思う。▼人間の目でものを見る、大局を誤らない大切な視点であると思う。何度でもお話を伺いたい。

▼戦争体験者、戦闘体験者はだれしも生き残ったと言うトラウマを抱えながら、もう今しか語れないという悲痛な思いで語る

きょうの品川さんの諄々とした語り、ほんとうに心にしみた。お礼は、聞かせていただいた私たちこそ申し上げなければならぬ。そして、二度と戦争をしない国にするため、われわれ主催者の責任を履行していかねればと思う。

▼戦争が好きで経済人の多い中で、高齢にもかかわらず不戦の訴えをし続ける品川さんに頭が下がります。私たち一人一人が9条を守らなければ、たくさん亡くなった人は浮かばれないでしょう。空襲で、はだして逃げ廻った子ども時代を過ごした者として、二度とこの国を戦争する国にしないため、憲法を守りたい、守らせる努力をしたと思います。戦場に身を呈した品川さんだからこそ重いものがある話でした。

▼憲法9条と日米安保のどちらが大事なのか、今の政治の中心問題である。核の傘にいなから核廃絶を叫ぶ矛盾、広大な基地を持つていることが最大の軍事

力を持つていること、の話は明解でした。戦争を起こすのも人間、その戦争を起こさせないのも人間—そのとおりですね。経済を人間の目で見ることのはなしは、本当にそのとおりですね。

▼私の父は（もし生きていれば106歳）中国の戦線で左足を失いましたが、それにまつわる戦闘の話は一度も語らずにあの世にいつてしまいました。今に思う、父の負っていたであろうトラウマの重さを知る思いです。

▼日本人の一人ひとりあり方、決意が世界の歴史を変えるのだという壮大な指摘に感銘を受けた。9条を持つ日本人の歴史的使命を改めて自覚させられた。

▼引き揚げ船の中ではじめて目にした日本国憲法を手にし、読み上げたときのお話は、本当に重く心に残りました。品川さんをはじめとして少数の経済界の方々の方々の良心と、戦争に付随する儲けを考える経済界の様々な

動きとが連動していかない、そのことが残念です。経済を人間の目、国民の目で見ない、このような状態に何故していったのか。

▼国民に真実を伝えないマスクミヤ政府の姿勢を正していく力が私たちにこそあることに勇気づけられました。

▼日本人としてほんとうに弱者を大切にしない国、憤りを感じます。人間の目で見ると、重い言葉がこれから考えていきます。ありがとうございます。

▼9条2項の旗はポロポロ、しかし国民は、憲法の旗竿は決して離そうとしない。私もどんな風雨にさらされても大揺れに揺れる旗竿をしっかりと支えていこうと思います。

▼中国もロシアも韓国もそして台湾も、対日領地問題で煙が立ち始めました。今私たちは二度と戦争による解決を目指してはならないと思います。



9条 インタビュー



東久留米「九条の会」では、新座市在住で、いつも東久留米駅を利用している島村裕美さん（17歳）に、憲法9条についてのインタビューをしました。



じゃあ、
どうしたいのですか？

私は、中学校に入っすぐ行かなくなりました。学校の授業は小学校までです。日本国憲法とは全く初対面で、まっしろけです。

・（日本国憲法前文と第九条をいっしょに読んでもらいました。）

戦争にかり出されることは嫌だし、あつてはならないことだと思います。若い人に戦争を体験させたとしても知識や経験になるとは思えません。同世代の男性が戦争に行っても意味はないし、戦争から帰ってこれてもキズついてくるだけ。やりたくないこと、人を殺して平気になって帰ってきて、当たり前になってしまっています。あつてはならないことです。9条はなくしてはならない。ずっとあるべきだと思う。9条をなくしたい人達に聞きたい。「じゃあどうしたいのですか？」と。

・いままで9条とのつながりは？



9条とは離れるかもしれないけど、小6のときイラク戦争が始まりました。ニュースを見ていて「どうして平気で戦争ができるのか？」と母親と話していました。イラク戦争でも日本は加担しています。憲法を破っても平気、そんな簡単にできるものかなと思いました。

戦争が始まったら男性はかり出されることになるし、女性も協力させられる。同世代としては、戦争を経験してないし見たこともない。同世代の人達も戦争を望んでいないと思います。

・60代以上の人は、若い人



がどう思っているのか知っています。



同世代、10代の人達が9条を知っているか、守る運動をしている人は少ないです。若い人達だけ集めて、9条を読んだら、説明してもらったら、わかってくれる人も少なくないと思う。いまどきの同世代の人達だと憲法を知る機会もなく、通り過ぎてきてしまっている。60代、70代に話してもらうのもいいと思う。知らうとしてくれる若い人がいればこのような機会をつくってほしい。そういう場になってもっと知っておけばよかったと思うから。

（聞き手 村山順次郎）

2010年10月28日市内で

※ご意見ご感想をお寄せください